

平坦地における冬春どりレタスの作型開発

研究のねらい

冬春どりレタスは産地が少なく価格が安定しており、本県ではハウス栽培に取り組む農家が増えています。しかし、冬季の低温により生育が遅延するなど、生産が不安定な傾向があります。そこで、本作型に適した保温方法や品種等について検討しました。

技術の特徴

- 1 保温方法として、不織布を浮きかけ、またはべたがけ被覆することで、厳寒期の1月中旬のレタス付近の気温は、日中で約3~4℃、夜間で約2℃高く保つことができます(写真、図1)。
- 2 不織布の被覆により収穫期が早まるとともに、結球重が増えて増収します(表1)。
- 3 冬春どり栽培には、耐寒性および低温期の結球肥大性に優れる「テンション」、「インカム」等を用い、不織布による被覆を併用することで、9月上旬から10月下旬の播種により、12月下旬から3月中旬までのレタス生産が可能となります(表2)。
- 4 不織布の被覆により湿度が高まるので、菌核病や灰色かび病などの予防のため、日中の温度が比較的高い時は、不織布を除去して換気を行います。



写真 不織布によるレタスの被覆
(左:べたがけ 右:浮きかけ)

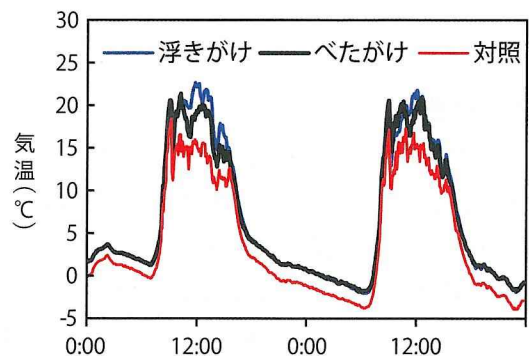


図1 レタス付近の気温(平成26年1月13日~14日)

表1 冬春どりレタスの収穫日、結球重、収量

保温法	収穫日	結球重 (g)	収量 (kg/10a換算)
浮きかけ	3月12日	326	1,853
べたがけ	3月12日	382	2,290
対照	3月26日	282	1,468

品種:「テンション」、播種:平成25年10月21日、定植:11月18日

今後の取り組み

今後は、他の作物での作型開発についても取り組む予定です。

(執筆者:小倉 愉利子)

表2 県内平坦地における冬春どりハウスレタスの作型

月旬	9			10			11			12			1			2			3		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
適品種: テンション インカム	○	—	—	△	—	—	—	—	—	□	■	■	—	—	—	—	—	—	—	—	—

凡例)○: 播種、△: 定植、□: 不織布被覆、■: 収穫